

## &lt;後期学校評価のねらいと方法について&gt;

## (1) ねらい

◎今年度の学校経営の重点項目に沿って、教職員・保護者・児童生徒に対してアンケート調査を実施することによって、後期の取組に対する達成状況等を明らかにする。

◎達成項目や課題項目について、教職員・保護者と情報共有し改善に向けて取組む。

## (2) アンケート実施方法

◎ 調査対象 : 保護者、児童生徒、教職員

◎ 時 期 : 令和5年1月中旬～3月初め

◎ 調査方法 : 各項目について「実現度」を回答

◎ 回 答 者 : 保護者（1家庭に1回答）・児童生徒・教職員

## (3) 回答率

◎ 比較 : 前期→後期

	保護者（172）	児童生徒（177）	教職員（134）
回答数	110→88	54→50	123→125
回答率	64.0%→51.2%	30.5%→28.2%	91.8%→93.3%

## &lt;保護者アンケート結果&gt;

肯定的回答は、実現度の「よく出来ている」と「大体できている」の回答を合わせた割合（%）を表示し、学部別に掲載しています。実現度の高い（90%以上）項目と、低い（60%以下）項目に着色をしました。（無記入は回答数には含まれていません。）

<項目>	◎学校経営の重点項目	肯定的回答					
		小学部		中学部		高等部	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
◎児童生徒一人一人にとって安心安全で、意欲の高まる学習環境づくり							
1	学校では、健康観察が丁寧に行われ、子どもは健康に留意して学校生活を送っている	98.4%	97.5%	100%	100%	91.7%	92.3%
2	学校は、健康維持や体力づくりに関する取組を十分に行なわれている	96.0%	97.5%	100%	95.5%	100%	92.3%
3	校内や教室は清掃され衛生的である	90.0%	89.7%	83.3%	100%	97.2%	92.3%
4	学校は、教材や備品の整理整頓、安全・事故防止に配慮している	96.0%	90.0%	83.3%	86.4%	100%	96.2%
5	学校は、避難訓練等を通して安全教育や防災に向けた取組を行なっている	90.0%	95.0%	83.3%	90.9%	91.7%	100%
◎自他の生命を尊び、自尊感情を高め、互いに支えあい、ともに心豊かに生きることを目指す人権教育の推進							
6	学校は、子どもが生き生きと主体的に取り組む行事や授業を行なっている	100%	95.0%	87.5%	86.4%	100%	92.3%
7	教職員は、子どもの人権を尊重した言葉づかいや態度で指導・支援をしている	100%	95.0%	95.8%	86.4%	88.9%	92.3%
8	子どもは、友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っている	62.0%	60.0%	79.2%	77.3%	86.1%	80.8%
◎「個別の包括支援プラン」の活用を進め、児童生徒、教職員、保護者が一体となった「生きる力」を育む教育の充実							
9	保護者として、本校の教育目標や方針、内容を理解している	96.0%	92.5%	83.3%	86.4%	97.2%	92.3%
10	子どもが理解しやすいように授業を行い、教材等を工夫している	96.0%	100%	95.8%	86.4%	97.2%	92.3%
11	本人や保護者の願いが個別の包括支援プランに反映されている	100%	97.5%	83.3%	86.4%	100%	96.2%
12	保護者と学校は、児童生徒の願いや、めざす姿を共有している	100%	97.5%	83.3%	81.8%	94.4%	96.2%

13	ICT 機器を使って子どもが意欲的に学べるように取り組んでいる	78.0%	62.5%	54.2%	72.7%	80.5%	69.2%
14	教職員は、保護者の思いを受け止め、親身に対応している	100%	92.5%	75.0%	86.4%	94.4%	92.3%
◎全ての教育活動を通じた規範意識の育成							
15	子どもは、学校の決まりや約束を守って学校生活を送っている	72.0%	75.0%	83.3%	86.4%	91.7%	92.3%
16	子どもは、自分なりの方法であいさつをしている	90.0%	87.5%	75.0%	77.3%	88.9%	88.5%
17	子どもは、いじめはしてはいけないことだと学んでいる	40.0%	45.0%	70.8%	63.6%	83.3%	76.9%
◎校種間連携と交流及び共同学習の推進							
18	園や小・中（学部）学校との引継が確実に行われ、支援が継続されている	82.0%	82.5%	75.0%	81.8%	80.5%	76.9%
19	交流及び共同学習では、子どもは楽しんで活動している	76.0%	77.5%	75.0%	63.6%	66.7%	76.9%
◎小・中・高一貫した計画的組織的な進路指導による適正に応じた進路選択と社会参加の実現 ◎保護者や地域の方々、大学関係者、産業界等の積極的な参画を得た、地域ぐるみ市民ぐるみの学校づくり							
20	子どもの社会参加の実現に向けた学習や支援が行われている	69.0%	57.5%	66.7%	68.2%	91.7%	88.5%
21	地域資源を活用した学習を通して、地域で生きる力をつけている	38.0%	35.0%	41.7%	50.0%	69.4%	69.2%
22	学年や学校だより、学校ホームページ等を通して学校の様子を伝えている	100%	97.5%	87.5%	90.9%	97.2%	96.2%
◎新型コロナウイルス感染症対策について							
23	学校は、感染防止対策を適切に行なっている	92.0%	87.5%	75.0%	90.9%	94.4%	96.2%

### 保護者アンケート結果から

肯定的回答が80%を超える項目は23項目中、小学部では16項目、中学部では16項目、高等部では18項目ありました。肯定的回答が60%以下の項目が小学部では17・20・21の3項目、中学部では21の1項目ありました。高等部はありませんでした。また、「わからない」の回答率が30%を超える項目は、小学部で8・13・17・20・21、中学部で17・19・21の項目でした。

- ① 8「子どもは、友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちを持って学校生活を送っている」について、肯定的な回答が小学部60.0%、中学部77.3%、高等部80.8%と前期と比べて全学部、肯定的な回答の割合が下がりました。「わからない」という割合が小学部35.0%、中学部22.7%、高等部19.2%と割合が高かったため、前期と同様、原因として考えられます。友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちを培うために、日々の集団での学習活動や学校行事の中で取り組んでいます。友だちや周囲の人を大切にしようとする気持ちが普段の生活に活かされるように、学びを積み重ねていく必要があります。
- ② 13「学校は、ICT機器を使って子どもが意欲的に学べるように取り組んでいる」の項目について、肯定的な回答が小学部62.5%、中学部72.7%、高等部69.2%と前期と比べて小学部と高等部では下がり、中学部は上がりました。小学部で肯定的な回答が低かった背景には「わからない」が35.0%あったことが考えられます。教職員は子どもたちが意欲的にICT機器を活用できるように、ICT機器の活用方法を学習する学習会などに参加しています。子どもたちが意欲的に学べるツールとして、これからもICT機器を使った学習を進めていきます。
- ③ 17「子どもは、いじめはしてはいけないことだと学んでいる」について、肯定的な回答が小学部45.0%、中学部63.6%、高等部76.9%でした。肯定的な回答が低かった背景には、「わからない」の回答が小学部52.5%、中学部22.7%、高等部26.9%あったことが考えられます。いじめに関する学習は、道徳教育や人権学習、日々の学習の中でも取り組んでいます。言語活動やコミュニケーション能力の育成などの学習の中で培ったり、学校行事や体験学習を通して人間関係作りを行ったりしています。このような学びを積み重ねて、自分も相手も大切にできる思いや行動する力を培っていきたくと考えています。
- ④ 19「交流及び共同学習では、子どもは楽しんで活動している」について、肯定的な回答が小学部77.5%、中学部63.6%、高等部76.9%でした。肯定的な回答が低かった背景には、「わからない」の回

答が小学部 17.5%、中学部 31.8%、高等部 19.2%あったことが考えられます。交流及び共同学習については、居住地校や地域、支援学校との交流を行っています。後期に入って、少しずつではありますが、居住地校交流や学校間交流も増えてきました。子どもたちが生き生きと活動できるように、今後も計画して進めていきたいと考えています。

- ⑤ 20「子どもの社会参加の実現に向けた学習や支援が行われている」について、肯定的な回答が小学部 57.5%、中学部 68.2%、高等部 88.5%でした。小学部での肯定的回答が低かった背景には、「わからない」の回答が小学部 42.5%、あったことが考えられます。日々の多様な学習すべてが、社会参加の実現に向けた取組であります。保護者の方と共にそれぞれの個に応じた社会参加の実現に向けた目標等を個別の包括支援プランで共有し、現在、また卒業後に生きる力を育む学習に取り組んでいます。
- ⑥ 21「地域資源を活用した学習を通して、地域で生きる力をつけている」について、肯定的な回答が小学部 35.0%、中学部 50.0%、高等部 69.2%でした。小・中学部での肯定的回答が低かった背景には、「わからない」の回答が小学部 52.5%、中学部 40.9%、あったことが考えられます。各学部において、地域資源を活用した学習を行っており、地域の方との関わりやつながりを深めています。教職員の回答も否定的な回答が前期 20.3%から後期 28.8%に増えました。コロナの感染対策が少しずつ緩み、地域資源を活用した学習が増えてきました。今後は児童生徒の地域での生活の拡がりを確かなものになるように、取り組んでいきたいと考えています。

#### <児童生徒アンケート結果>

児童生徒アンケートは、一人で又は指導者の支援を受けて回答したものです。肯定的回答は保護者同様、否定的回答は、「あまりできていない」と「できていない」を合わせた割合（%）を表示しています。

<項目>	◎学校経営の重点項目	肯定的		否定的		わからない	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	規則正しい生活を送っている	83.3%	78.7%	14.8%	19.1%	1.9%	2.1%
2	毎日からだを動かして、健康な体力づくりに取り組んでいる	88.9%	86.0%	11.1%	12.0%	0%	2.0%
3	校内や教室の掃除をしている	74.1%	81.1%	11.1%	7.5%	14.8%	11.3%
4	学習で使う物や自分の荷物を決められた場所に片づけている	94.4%	92.0%	1.9%	6.0%	3.7%	2.0%
5	先生の話や放送を聞いて避難訓練等を行い、安全に過ごせるように学んでいる	90.7%	90.0%	3.7%	4.0%	3.7%	2.0%
6	学校での学習や活動は楽しい	90.7%	88.0%	5.6%	6.0%	1.9%	6.0%
7	友だちと仲よくしている	87.0%	94.0%	5.6%	4.0%	7.4%	2.0%
8	先生は、分かりやすく教えてくれる	94.4%	96.0%	1.9%	0%	3.7%	4.0%
9	ICT 機器を使って楽しく学習をしている	79.6%	85.7%	7.4%	8.2%	11.1%	6.1%
10	学校の決まりや約束を守っている	85.2%	88.0%	7.4%	4.0%	7.4%	8.0%
11	あいさつやていねいな言葉づかいをしている	85.2%	89.8%	9.3%	8.2%	3.7%	2.0%
12	いじめはしてはいけないことだとわかっている	87.0%	88.0%	3.7%	2.0%	9.3%	10.0%
13	交流や地域の中で、楽しく学習することができた	81.5%	78.3%	5.6%	10.9%	11.1%	10.9%
14	次の学年や学部、卒業後の生活について、先生と一緒に考え、自分でできることに取り組んでいる	79.6%	82.0%	7.4%	8.0%	13.0%	10.0%
15	感染防止のために自分でできる対策をしている（マスクの着用や人との距離など）	87.0%	88.0%	9.3%	6.0%	3.7%	6.0%
16	不安になった時やしんどくなった時など、自分の気持ちを周りの人に伝えることができる	79.6%	66.7%	11.1%	22.9%	7.4%	10.4%



## 児童生徒のアンケート結果から

児童生徒アンケートの結果は、肯定的回答が80%を超える項目は16項目中、13項目（前期は12項目）ありました。否定的な回答が20%を超える項目は1項目（前期は0項目）ありました。

- ① 「16 不安になった時やしんどくなった時など、自分の気持ちを周りの人に伝えることができる」の項目について、前期は否定的な回答が11.1%に対し、後期は20.4%と否定的な回答が前期よりも増加しました。否定的な回答をしたほとんどが高等部の生徒でした。教職員は子どもたちのアンケート結果を受け止めるとともに、安心できる信頼関係を築き、少しでも周りの人に相談できる環境を作ることが必要です。高等部の生徒の心理的な発達の援助ができるように担任や学部の教員だけでなく、スクールカウンセラーの活用や教職員が連携をして、児童生徒を守るように取り組んでいきたいと考えています。

## <教職員アンケート結果>

未記入は回答に含まれません。

◎学校経営の重点項目		肯定的		否定的	
		前期	後期	前期	後期
◎児童生徒一人一人にとって安心安全で、意欲の高まる学習環境づくり					
1	児童生徒・自身の日常の健康観察を丁寧に行なっている	98.4%	97.6%	0.8%	1.6%
2	児童生徒の健康維持や体力づくりに十分に取り組んでいる	93.5%	91.2%	1.5%	4.8%
3	児童生徒の命を守り、児童生徒が安心して学べる安全で整理された学習環境づくりに取り組んでいる	95.9%	96.0%	2.3%	4.0%
4	常に危機管理意識を高く持ち、発作やケガ等の緊急時の対応を組織的に行なっている	94.3%	95.2%	4.1%	2.4%
5	児童生徒への安全教育、防災に向けた取組を行なっている	85.4%	82.4%	14.6%	13.6%
◎自他の生命を尊び、自尊感情を高め、互いに支えあい、ともに心豊かに生きることを目指す人権教育の推進					
6	児童生徒の生活年齢や発達段階に応じた指導・支援を行なっている	92.7%	94.4%	6.5%	4.0%
7	児童生徒の人権を尊重した言葉づかいや態度で指導・支援を行なっている	96.7%	96.8%	3.3%	1.3%
8	児童生徒が、学習を通して人とつながり、思いやりを持って人と接する態度を育てる指導や支援を行なっている	95.1%	92.8%	4.1%	2.4%
◎「個別の包括支援プラン」の活用を進め、児童生徒、教職員、保護者が一体となった「生きる力」を育む教育の充実					
9	本校の教育目標やめざす姿、学校経営の重点を意識して、学校教育活動に取り組んでいる	91.1%	84.0%	8.9%	10.4%
10	子どもを「できる存在」として捉え、一人一人の子どもの能力や可能性を最大限に伸ばす指導や支援を行なっている	95.1%	95.2%	4.1%	3.2%
11	児童生徒の願いやめざす姿の実現に向けて「個別の包括支援プラン」を作成し、個々に応じた長期・短期目標の達成に向けて授業づくりに取り組んでいる	91.1%	88.8%	5.7%	7.2%
12	「個別の包括支援プラン」を基に授業改善を行ない、児童生徒が自ら学び、夢や願いの実現に向かう力を育てている	90.2%	83.2%	6.5%	11.2%
13	個々の「生きる力」の育成を目指し、児童生徒がICT機器を支援ツールとし意欲的に学べるように取り組んでいる	83.7%	84.0%	14.6%	12.8%
14	保護者からの相談に親身に対応し、相談内容を教職員間で共有している	94.3%	91.2%	0.8%	4.8%
◎全ての教育活動を通じた規範意識の育成					
15	児童生徒が、規律ある生活習慣やルールを守る態度を身に付けるための指導や支援を行なっている	95.1%	90.4%	4.1%	6.4%
16	児童生徒が、あいさつや適切な言葉づかいができるように指導や支援を行なっている	94.3%	92.8%	5.3%	4.8%
17	学校いじめ防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	94.3%	90.4%	4.9%	3.2%

◎校種間連携と交流及び共同学習の推進					
18	園や小・中（学部）学校との引継が確実に行われ、継続した支援に生かしている	85.4%	80.4%	7.3%	14.4%
◎小・中・高一貫した計画的組織的な進路指導による適正に応じた進路選択と社会参加の実現 ◎保護者や地域の方々、大学関係者、産業界等の積極的な参画を得た、地域ぐるみ市民ぐるみの学校づくり					
19	児童生徒の社会参加の実現に向けた学習や支援を行なっている	91.1%	92.0%	8.1%	5.6%
20	地域資源を活用した学習を通して、互いに理解し合う取組を進めている	71.5%	63.2%	20.3%	28.8%
21	福祉、医療、地域支援センター等の関係諸機関と連携し、児童生徒の指導や家庭支援に取り組んでいる	82.9%	80.8%	12.2%	11.2%
22	学校は、学校だよりや学校ホームページ等で、学校の様子や情報を伝えている	97.6%	92.8%	0.8%	4.0%
◎総合育成支援教育に関する専門性の向上によるセンター機能の充実					
23	総合支援学校教育研究会や各種研修会、学習会等へ参加し自己研鑽に努めている	93.5%	73.6%	6.5%	24.0%
24	PT や ST、ICT、OT、SC 等、外部専門家や外部関係機関との協働・連携し、児童生徒への指導・支援に役立っている	95.1%	91.2%	1.5%	3.2%
◎校務分掌組織の機能的運用と、迅速な情報共有・課題解決による組織的な学校経営、学校予算の有効活用					
25	「学校経営参画者」として意識し、「より良い学校づくり」に主体的に取り組んでいる	89.5%	87.2%	5.7%	9.6%
26	校務分掌組織に基づいて、自らの職務を担い、責任を果たしている	92.6%	94.4%	3.3%	3.2%
27	「働き方改革」を意識して、電話対応や閉門時間を守り、業務の効率化に向けて取り組んでいる	80.5%	79.2%	16.3%	17.6%
28	常に「報告・連絡・相談」を意識し、情報共有に努めている	99.2%	96.0%	0.8%	1.6%
29	物品の整理整頓を心がけ、無駄を無くし、有効な予算執行を行なっている	91.1%	89.6%	8.1%	7.2%
◎新型コロナウイルス感染症対策について					
30	感染防止対策を適切に行なっている	98.4%	97.6%	1.5%	2.4%
31	児童生徒の家庭学習の支援や、家庭への連絡、情報提供等に努めている	95.9%	90.4%	1.5%	4.0%

### 教職員アンケート結果から

教職員アンケートの結果では、肯定的回答が80%を超える項目は31項目中28項目と前期（30項目）と比べ、2項目減りました。

- ① 20「地域資源を活用した学習を通して、互いに理解し合う取組を進めている」の項目では、否定的な回答が28.8%と前期の回答20.3%より増えました。少しずつ地域へ出ることも増えてきたのですが、教職員の回答としてはまだまだ十分には地域資源を活用できていないという結果となりました。地域資源の活用ができなくなって、3年が経ち、今までと同じように活用できないことも多いので、新たな地域資源の活用を考えるとともに、計画的に取り組んでいきたいと考えています。
- ② 23「総合支援学校教育研究会や各種研修会、学習会等へ参加し自己研鑽に努めている」の項目では、肯定的な回答が73.6%と前期の93.5%から大きく下落しました。専門職としての力量と幅広い知識を持つために自己研鑽に努めなければいけないのですが、できていないというアンケート結果となりました。校内での学習会としては、ICT活用に関する学習会、PT・OT・ST活用に関する学習会など、年間をとおして30以上実施しましたが、後期に入って行事等もあり、あまり参加できなかったのが、このような結果となったと考えられます。教育活動の充実のため、オンデマンドで必要な時に動画を視聴して自己研鑽できるようにするなど、考えていきたいと思えます。
- ③ 27「働き方改革」を意識して、電話対応や閉門時刻を守り、業務の効率化に向けて取り組んでいる」の項目では、否定的回答は17.6%でした。前期の結果も16.3%で同じような結果となり、業務の効率化が進んでいないという結果となりました。電話対応や閉門時刻など前期と比べて教職員の意識は変わったと考えられます。校務支援員の活用についても依頼しやすいようにしましたが、業務の精選、分担などの効率化については依然として課題があると考えられます。業務の効率化に向けて、実現可能な部分から取り組んでいくことが求められます。